

実践研究福井ラウンドテーブル
2021 Spring Sessions Feb 20th

ZONE A 学校

21世紀の学びを実践する教師の学習コミュニティを培う
—対話を通して学びを深めていくには—

Zone Aではこれまで、「専門職の学び合うコミュニティ (Professional Learning Communities)」を培う学校改革のビジョンにもとづき、「21世紀の学びを実践する教師の学習コミュニティを培う」というテーマを掲げ、学校が持続発展していくための教師協働の在り方について議論を積み重ねてきました。今回の実践研究福井ラウンドテーブル 2021 Spring Sessionsでは with コロナ、そしてポスト・コロナに向かう状況の中で「主体的・対話的で深い学び」を実現していく鍵は何かを検討し合い、この課題にそれぞれの現場で私たちがどう向き合っているかを共有し、対話の質に焦点を当て、授業をどのようにデザインしていくか、参加者のみなさまとともに協働探究していきます。特にシンポジウムでは、「21世紀の学び」の在り方についても確認しながら対話と議論を重ね、これまで Zone A で蓄積してきた知見をさらに前進させていきます。

Connection	12:00-13:00	接続
Orientation	13:00-13:10	オリエンテーション
Session I	13:10-15:10	Webinar Symposiums 「深い学びにつながるコミュニティの対話の在り方を探る」
対談	13:10-13:40	福井大学連合教職開発研究科 准教授 木村 優 福井大学連合教職開発研究科 准教授 小林 和雄
シンポジウム	13:40-15:10	
<シンポジスト>		福井大学教育学部附属幼稚園 副園長 斎藤 弘子 松本市芳川小学校 教諭 上兼 淳 小浜市小浜第二中学校 校長 加福 秀樹 福井大学連合教職大学院 准教授 宮下 正史 (敬称略)
<コーディネーター>		

Session II	15:30-17:00	Webinar Breakout Room
現状共有と明日への展望		Session I の議論に基づき、参加者それぞれの学校づくりの長い実践を共有し、新たな出会いと協働を編み込んでいきます。小グループ形式で協働を編み込み、実践をデザインし、文化を生み出します。
Cross-session		

実践研究福井ラウンドテーブル
2021 Spring Sessions Feb 20th

ZONE B

教師教育

働き方改革と学び合う学校づくり

ー組織・コミュニティ・カリキュラムのマネジメントー

今日の学校教育には、これからの変化の激しい時代において持続可能な社会の担い手となる子どもたちの資質・能力を育むため、主体的・対話的で深い学びの実現など、教育の質的転換・向上が求められています。また、教員の大量退職に伴い、若い世代の教員を支え育てる組織づくりも必要とされるなど、学校は大きな変革のなかにあります。他方で、教員の働き方改革も急務とされています。こうした状況のなかで教育に携わる者の多くは、教育の質的向上と働き方改革とは一方を推進すれば他方が停滞するというディレンマに悩まされているのではないのでしょうか。

Zone B「教師教育」では、現状を克服し、教育の質的向上と働き方改革との両立を目指して、自治体における具体的な事例なども踏まえながら、行事の精選や教員の会議の削減などに止まらず、教師の働き方改革を実現しつつ教育の質的向上を図るためのカリキュラムマネジメントや教師が学び合うコミュニティとしての学校のあり方について展望を拓いていきます。コロナ禍が学校に様々な困難と同時に変化の機会をもたらしした今こそ、学校という組織のニューノーマルを探り、協働する組織、学び合う組織としての学校づくりを進める好機です。今回の Zone B では、そうしたこれからの学校の姿を思い描きつつ、教育の質的向上と働き方改革との両立について、多様な実践を共有し、共に考えていきたいと思えます。多くの皆さまの参加をお待ちしております。

なお、今回もオンライン会議システム（Zoom）を用いて実施します。

Orientation 13:00-13:10

Session I 13:10-15:20 Symposium

<話題提供> 福井県教育庁教育政策課長

<実践報告> 長野県諏訪市立高島小学校教諭（研究主任）

福井市森田中学校教頭

福井県立藤島高等学校校長

<コメンテーター> 福井大学連合教職大学院客員教授、元理事

<進行> 福井大学連合教職大学院教授

星 匡哉

小川 浩貴

高間 祐治

松田 透

寺岡 英男

淵本 幸嗣

（敬称略）

今後の学校の姿を見据え、教育の質的向上や人材育成と働き方改革との両立を目指した実践を共有します。

Session II 15:20-17:00 Forums

実践報告を踏まえ、参加者それぞれが今後の実践にどのように生かすことができるか、小グループで協議します。

実践研究福井ラウンドテーブル
2021 Spring Sessions Feb 20th

ZONE C コミュニティ

持続可能なコミュニティをコーディネートする
ーコロナ禍において学びをつなぐ

6月のラウンドテーブルのZone Cでは「コロナ禍状況におけるコミュニティの学びの展望を拓く」というテーマに取り組みました。当時は、コロナ禍という状況が、いったい私たちにどのような問題をもたらしているのかさえ、明確に捉えきれない状況でした。そのような中で、「せめてオンラインで」という形で開催しましたが、「オンラインだから」これまで以上に多様な地域から参加してくださいました。そして、お互いが抱えている悩みや不安に耳を傾け合うとともに、この状況でも実践を展開させる具体的な知恵を共有し合いました。さらに、自分たちのコミュニティの存在意義、活動の意味を問い直す機会ともなりました。

しかし、その後も、コロナの影響は収まるどころか、先行きは見えません。経済状況の悪化による生活困窮者の増加、感染者や医療関係者に対する差別などは、社会に多くの分断を生み出し、孤立させられる人々を生み出しています。同時に、これまで私たちの社会がすでに抱えていた課題ー都市一極集中の限界と地域の過疎化の問題、高齢者の孤立化、外国籍の住民の孤立化、ジェンダー差別等ーも、深刻化しています。

これまで、こうした課題の解決に取り組み、人々をつなぐのを支えてきた、多くのコミュニティでの活動も、計画の変更、延期や中止が繰り返され、コミュニティの持続可能性が脅かされています。そのことは、この「コロナ禍でも」と活動を支えてきた、コミュニティの支え手たちのモチベーションを維持することも、活動を通して紡がれる学びを次世代へと引き継ぐことも、一層に困難にしています。その一方で、これまで培ってきたコミュニティの学びがあったからこそ、この困難な状況でも紡がれている実践があります。もしくは、オンライン・ツールの普及は、今までになかった人々の交流・つながりを生み出すことも可能にしていますー6月のラウンドテーブルがそうだったように。そこで、今回のZone Cでは、このような問いを投げかけてみたいと思います。「こうした状況下にあっても、私たちが、仲間とつながり合って実践を生み出すことをあきらめないために、今、私たちには、一体どのような学び合いが求められているのか？」そして、次の3つの角度から、この問いに取り組みます。

- コロナ禍において、コミュニティの学びをつなぐための実践
- そうした実践を支えるためのコーディネーター自身の協働の学び
- コミュニティを超えた学びの実践

こうした実践に学ぶことを通して、コロナ前の状況にコミュニティを戻すことをめざすのではなく、むしろより豊かなつながりを築いていくために、参加者の皆さんとともに考え合う機会としたいと思います。

事前交流会のお知らせ

準備の過程から、参加者の皆さんたちの声を聴きながら、この会を作っていきたいと考えています。そのため、事前に参加者どうしの簡単な交流会を設けています。それぞれの参加者の皆さんが、コミュニティで出会ってきた困難、大事にしていきたいこと、頑張ってきたことなどをお話できればと思います。よろしければ、ぜひご参加ください。事前交流会に参加できなくても、ラウンドテーブル当日の参加はもちろんできます！

事前交流会① 2020年12月22日（火）16:00-17:00

事前交流会② 2021年1月12日（火）17:45-18:30

事前交流会③ 2021年1月19日（火）17:45-18:30

事前交流会への参加申し込みは、Zone Cに申し込まれた方へのみ、
別途ご案内いたします。



実践研究福井ラウンドテーブル
2021 Spring Sessions Feb 20th

ZONE D International

International Initiatives on Teacher Education Reform: Perspectives on “Reflective Lesson Study”

The Sustainable Development Goals (SDGs) to be achieved by 2030 set out to provide inclusive, equitable and quality education for all and to promote lifelong learning opportunities in which improvement of teacher education is one of the touted targets. The University of Fukui Department of Professional Development of Teachers has been in partnership with JICA Africa agenda-specific training on launching projects for teacher education reform through lesson study in the region from 2016. Concurrently, the university has continued to accommodate requests for teacher training from Egypt, Saudi Arabia, Singapore, Thailand, among others with Fukui-style lesson study, more known as “Reflective Lesson Study” as its main core. These teacher reform projects have resulted in contextualized variations of lesson study around the world; each case is unique though they all fall under a bigger umbrella of the vision to uplift the quality of education. Accordingly, the Fukui Bi-Annual Roundtable Zone D: International is a platform for sharing, reflecting and networking on different reforms on teacher education around the world.

Zone D: International Teacher Education Reform consists of a symposium and small group discussions. The first session (symposium) explores the theme of “Perspectives on “Reflective Lesson Study””. At the symposium, past participants from Africa of the knowledge co-creation program between JICA and the University of Fukui will speak of their experiences in the training, their new gained perspectives of reflective lesson study, and their current initiatives towards reflective lesson study expansion. Implementation, challenges and collaboration are some of the key topics that will be reflected upon to gain insights of local and global perspectives of reflective lesson study. In the subsequent session of small groups, participants will be asked to concretely think of and relate such big ideas to their respective institutions or school practices. All sessions in this zone will be conducted in English.

Session I | 15:00-16:40 Symposium Perspectives on “Reflective Lesson Study”

Past DPDT-JICA Knowledge Co-Creation Program African Participants

<Panelist>

1. Malawi: Moyo Ganizani, Jesuit Secondary School Teacher, Teacher
2. Uganda: Betty Auma, Regional Lesson Study Trainer, Dr. Obote College
3. Ghana: Thomas Arboh, Manager, Police Education Unit Board Member,

The National Teaching Council

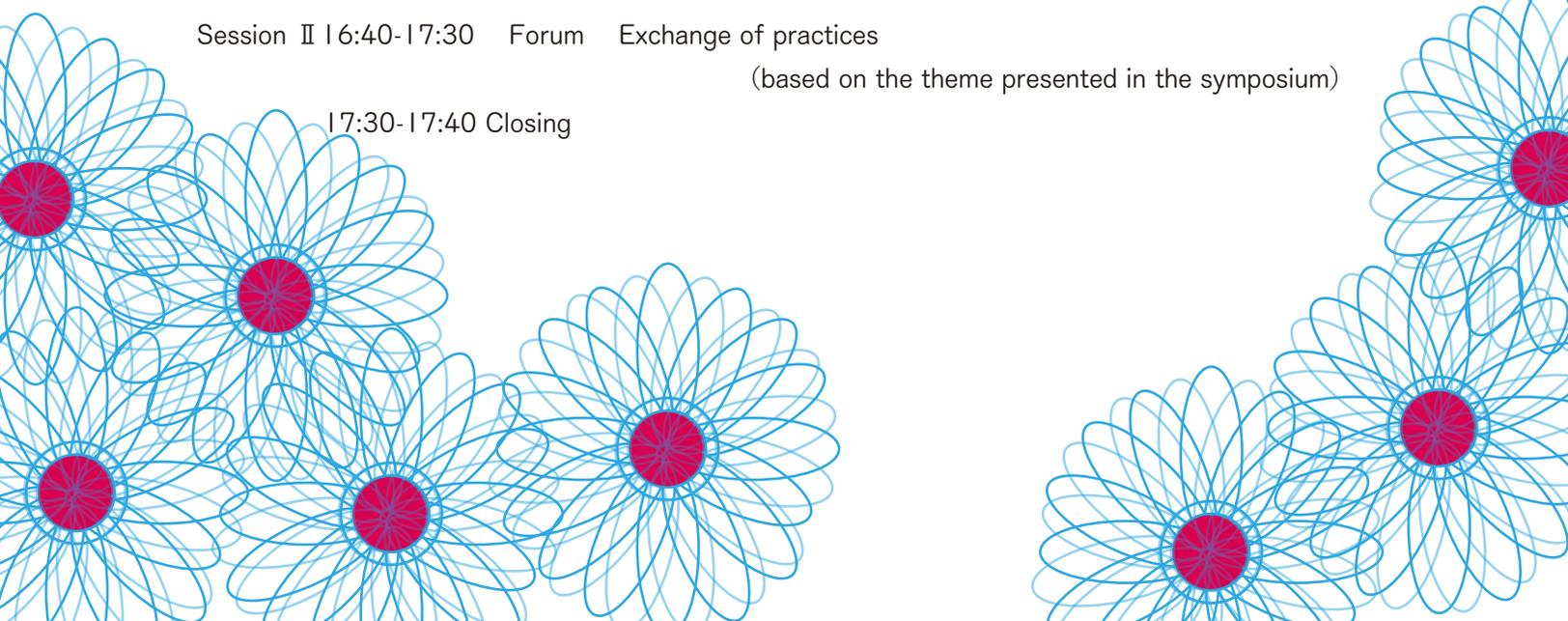
<Commentator> Takahiro Endo, University of Fukui, Associate Professor

<Coordinator> Pauline Mangulabnan, University of Fukui, Assistant Professor

Session II | 16:40-17:30 Forum Exchange of practices

(based on the theme presented in the symposium)

17:30-17:40 Closing



実践研究福井ラウンドテーブル
2021 Spring Sessions Feb 20th

ZONE E

探究

学びと教えのニューノーマルを協働探究する
ー若者たちと大人たちによる新しい学びの地図のデッサンー

2020年春、COVID-19パンデミックに対する教育的応答として始まったプロジェクト、中高生・大学生をはじめとした若者たちと大人たちによる「学びと教えのニューノーマル」の協働探究の歩みは、いよいよ最初の「集大成」に向けて舵をきります。2021年1月12日（火）のNET WORKING MEETINGから「構え」を整えはじめ「私たちがつくりたい社会・世界のウェルビーイング」「今、そしてこれから必要なチカラとココロ」の対話をかさね、2月20日（土）21日（日）実践研究福井ラウンドテーブルにて「楽しい学校」と「評価・受験のニューノーマル」を協働探究し「新しい学びの地図」の中にデッサンしていきます。

以下のロードをとおして参加者間の対話・関係・信頼を深めていきます。2月20日（土）21日（日）前の各種ミーティング・セッションには、ご都合のつく範囲で無理なくご参加ください。出入り自由です。

ROAD TO FUKUI ROUND TABLE 2021 SPRING SESSIONS, FEB 20th & 21st

- 1月12日（火） 19:30-21:00 **NETWORKING MEETING** 複数ネットワークを編み込み、メンバーの関係を深めます
- 1月19日（火） 19:30-21:00 **STARTING-OFF MEETING** ビジョンを共有します
探究対話「私たちがつくりたい社会・世界のウェルビーイング」
- 1月23日（土） 14:30-17:30 **3rd COLLABORATIVE INQUIRY MEETING hosted by KANAZAWA**
協働探究「今、そしてこれから必要なチカラとココロ」
- 2月 2日（火） 19:30-21:00 **ROUND TABLE PRE-SESSION 1** 探究対話「楽しい学校をみんなで考える」
- 2月 9日（火） 19:30-21:00 **ROUND TABLE PRE-SESSION 2** 探究対話「評価・受験のニューノーマルをみんなで考える」
- 2月20日（土） 13:00-17:00 **4th COLLABORATIVE INQUIRY MEETING in NARA ONSITE* & LINE**
協働探究「私たちが求める“楽しい学校”をデッサンする」
- 2月21日（日） 10:00-14:00 **ROUND TABLE CROSS SESSIONS**
若者ラウンド「評価・受験のニューノーマルをデッサンする」
大人ラウンド「探究の長い実践のあゆみを語り聴き合う」

実践研究福井ラウンドテーブル
2021 Spring Sessions Feb 20th

ZONE F

インクルーシブ

多様な子どもたちの学びと育ちを支えるコミュニティを培う

共生社会の実現、多文化共生、ダイバーシティの推進など、多様性が尊重される社会の実現は、我が国における一つの大きな課題となっています。多様性の尊重はマイノリティや社会的弱者といった一部の人々に関する問題としてクローズアップされがちですが、そもそも、私たちはみなそれぞれがユニークな存在であり、多様性を彩る一員です。つまり、多様性が尊重される社会とは、全ての人があるがままに生きることが大切にされる社会に他なりません。そうした意味でのインクルーシブな社会の実現には、全ての子どもがあるがままの存在として生き、育つことのできる教育の取り組みが不可欠です。この困難な課題に立ち向かうため、この度、「ZoneF インクルーシブ教育」は立ち上がりました。「一人ひとりの子どもが自らの個性や能力を発揮することができる学習環境をいかにコーディネートするのか」、「インクルーシブ教育の根幹にある個に応じた支援を学級という集団の中でどのように行ない、いかにして子どもたち同士の学び合いや自治活動へと繋げていくのか」、「多様な子どもがいるからこそ生まれる育ちや学びとはどのようなものであるのか」、「地域で共に生きることをいかに支えるのか」、今まさに直面している課題について、参加者のみなさまと共に探究していきたいと思えます。

日頃の実践の中で感じている悩み、課題、考え、これまでに取り組んできた小さなあるいは大きなチャレンジを携えてご参加ください。互いの実践を聴き、語り合うことを通じ、「このメンバーだからこそ生まれる学び」を参加者のみなさんと共に形作っていききたいと思います。

12:00-13:00 接続開始 (ZOOM)

13:00-13:10 オリエンテーション

13:10-15:00 シンポジウム：多様な子どもたちが学び合うコミュニティを創る (仮題)

シンポジスト：群馬県立二葉特別支援学校 教諭 南雲 敏秀 氏
福井大学教育学部附属義務教育学校前期課程 研究主任 川崎 耕介 氏
あわら市本荘小学校 校長 志田 智子 氏

コメンテーター：福井市足羽小学校 校長 小杉 真一郎 氏

15:15-17:00 フォーラム

A. 小学校における授業実践

報告者：長野県伊那市立伊那小学校 井澤 滋 氏

コメンテーター：附属義務教育学校前期課程 川崎 耕介 氏

B. 高等学校における特別支援教育の取り組み

報告者：福井県立奥越明成高等学校 石倉 千智 氏

コメンテーター：福井市足羽小学校 校長 小杉 真一郎 氏

C. 特別支援学校における授業実践

報告者：福井大学教育学部附属特別支援学校 小嵐 英輔 氏

コメンテーター：群馬県立二葉特別支援学校 南雲 敏秀 氏

※タイムスケジュールは今後変更になる場合があります。

福井県の特別支援教育を牽引し、本ラウンドテーブル Zone Fでもコメンテーターをお願いしておりました福井市足羽小学校校長 小杉真一郎先生が令和3年1月27日にご逝去されました。学校がすべての子ども達の笑顔が輝く場であることを願って真摯に仕事に取り組んでこられた小杉先生の思いを大切に受け継ぎながら、私たちはインクルーシブな社会の実現に向け、実践と省察を続けていきたいと思えます。小杉先生のこれまでの御尽力に感謝申し上げるとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。